



STEP BY STEP

異常な暑さの夏が終わり、秋がきてホッとされている方も多いのではないのでしょうか。前号の印刷を発注した段階では桜井さんは闘病中でした。発送作業をするために事務局メンバーが事務所に集まったのが8月26日。桜井さんは3日前にお亡くなりになっていました。全員、心にぽっかりと穴が開いた状態で、思い出話に花を咲かせながら、作業しました。会報ではお知らせできなかったのが、訃報は印刷して添えることにしました。

そして31日、抜けるような青空の下、水戸市斎場で行われた葬儀には4~500人くらいの方が参列していたと思います。何度も腹水を抜いていると聞いていたので、覚悟はしていたけれど、遂にこの日が来てしまった、そんな表情の顔ばかり。

桜井さんは常々「布川弁護団は日本一の弁護団」とおっしゃっていました。弔辞に立った谷萩陽一弁護士が「あなたこそ日本一の請求人でした。弁護団の誰一人として勝てると思っていない場面でも、『勝てる。必ず勝つ』と皆を鼓舞しました。私たちが勝てたのはあなたのお陰です」と静かに読み上げました。

式の最後は桜井さんが獄中で書いた『ゆらゆら春』を皆で大合唱するという異例のエピローグ。これがまた泣けて泣けて。桜井さんらしい式だったねと誰もが言っていました。

桜井さんは帰らぬ人となってしまいましたが、遺してくれたものはあまりにも大きく重たいです。桜井さんが切り拓いてくれた道を皆で広げていきます。桜井さん、見ていてください。
(事務局/なつし聡)



私のヒーロー、桜井さん

西山美香

私が桜井さんの存在を知ったのは、1回目の再審請求審の村岡先生から、冤罪で闘っている人がいて、無期懲役で、29年間獄中にいて、今社会で必死に過ごしている人がいると、教えてくれました。当時の私は自暴自棄になり、荒れ果てていました。桜井さんの存在を聞いても、そうなんだとしか思わずにいました。そしたら桜井さんの方から和歌山刑務所に、手紙をくださいました。それを読んで、私は衝撃を覚えました。まだ強盗殺人犯のはずの桜井さんはとても明るく、イライラする気持ち、心がそわそわする気持ち、やるせなさ、悔しさを全部分かってくれた上で、自分を大切にしないといけないと、便せんにいっぱい書いてありました。

私は、少しずつですが、自分を大事にするようになってきましたが、再審をしていると、どうしても獄中にいることが、苦痛でした。桜井さんはそんな私とでも、他の人と変わらず、文通をしてくれました。桜井さんとの文通は、私にとって楽しみの一つになりました。あと桜井さんの本もプレゼントしてくれました。

同じ冤罪で苦しんでいる桜井さんが希望をくれました。獄中での面会はかないませんでした。社会に出て桜井さんと同じ舞台上で発言することがとても幸せでした。桜井さんが癌になられたときは、ショックでしたが、絶対治ってみせるといつもの笑顔で言ってくれたので、信じることにしましたが、徐々に弱っていく姿を見るたびに、悲しくなりました。今、桜井さんが亡くなられて、さみしい気持ちでいっぱいですが、私にできる限りのことは、していきたいと思っています。(西山美香)

※桜井さんの名字は桜井なのか、桜井なのか。奥様の恵子さんに確認したところ、正式な文書や契約書、身分証明書などには櫻の文字が使われているそうです。しかし、おふたりとも「どちらでも構わない」「それで自分が変わるわけではない」とお考えだったようで、桜の文字を使用していたとのこと。細かなことにこだわらない、生き方が表れている、そんなお話でした。

櫻井さんに雪冤を誓う

緒方秀彦

去る8月22の深更（23日未明か？）、私は受刑歴2年足らずの駆け出し”Z世代”囚とのトラブルに巻き込まれ、懲罰房の床で寝ていたところ、ある夢を見て起きた。あるいはうなされでもして、多少の声を上げて眼を醒ましたのかもしれない。櫻井昌司さんと青木恵子さんが、優しい笑顔で夢枕に立ち、櫻井さんが言った。「仲間（懲役）たちの犯罪的言動や、大人げない悪戯を気にしていたらもたない。懲役は犯罪者だから、常に自分に対する他人の視線を意識していて、見下されたり軽視されたりすると、敏感に反発のSW（スイッチ）が入る。緒方さんの言わんとすることは理解できるが、そこはひとつ、人間修養だと思って踏ん張ってな」

そして、それに続いて青木さんが「またそのうち面会に来るわね。今日、気に入ってもらえるか分からんけど差し入れ、入れといたよ。櫻井さんが言うように、もう少し違う角度から仲間を見てやって。何か楽しみを見つけて一緒に喜んであげられたらいいね」と付け加えるように言うと、ふたりはスッと姿を消した。

翌23日、そんな夢の中の出来事など気にも留めず、懲罰房で調査隔離されている者に課される座業の紙折をしながら、トラブル後の自分に下される審判のことを考えたりしていると、青木さんからの差し入れの告知と配布があった！（通常、工場就業時には告知と配布は別々になるのだ。）デ・ジャブか？ それとも、ああいう夢を見ることを「夢枕に立つ」と云うのかな。と思った矢先、夕食後のラジオニュースで櫻井さんの訃報が流れてきた。（青木さんは生霊？）うわっ、正夢かいな！ 櫻井さんは最期に叱咤激励に来てくれたのか___末期がんを抱えながらも、我々冤罪に苦しむ仲間たちを何とか救おうと尽力してくださっていたことは重々知っている。Z世代の若者とトラブルに遭った直後も、櫻井さんが、懲役も冤罪被害者も同じ「仲間」と表現していたこと、刑務所での生活を「不運ではあったが不幸ではなかった」ととらえられていたことなどが、私の胸を締め付け、後頭部にチリチリとしたヒスノイズ的痛みを感じさせた。

同時に雑居で『警察24時』などというTV番組を観ながら、犯人とされる者に「こいつは馬鹿だ！ 俺なら●○する」と言いながら薄ら笑いを浮かべる者、性犯対象の教育を終えて他の刑務所から戻ってきた途端、みそぎを済ませたと言わんばかりに、性的話題の禁忌（タブー）の封印を外し好色の目でTVやグラビアに食らいつく者、下卑た醜悪な表情を晒す者たちに怨嗟の感情を抱いてしまう私の受刑生活は、櫻井さんには早くから「悲惨だ」と看破されていたのだろうという想いが込み上げてきた。青くさい正義感と懲役を上から目線で見てしまう自分。

今から櫻井さんがご自身のブログ『獄外記』にアップした2017年5月の「岡山刑務所」と題された記事のコピー（支援者が差し入れてくれたもの）と、櫻井さんの上申書の写しを読み返してみようと思っている。私の再審と雪冤への闘いの原動力の糧にしたい。そして、櫻井さんへの感謝を心に深く刻みたい。「不運ではあったが不幸ではなかった」と1日も早く、皆に話せるように。櫻井さんのご冥福を岡山の獄舎よりお祈りいたします。

（岡山刑務所在監/緒方秀彦）



えん罪・神戸質店事件 支援する会ニュースより借用した緒方秀彦さんの写真。

冤罪犠牲者の会第4回総会の報告とイベントのお知らせ

9月9日に開催した『次は石川一雄さんだ！～狭山事件、第3次再審請求の現状』と題した、総会を兼ねた集会は無事に終了しました。総会部分を除いた、当会共同代表の矢部孝司さんと安田聡さん（部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部）の講演はYouTubeに公開してあります。お時間のある方は是非、ご覧ください。

検索方法はYouTubeを開き、検索窓に「冤罪犠牲者の会」と入力します。

冤罪犠牲者の会のYouTubeチャンネルのURLは下記です。

<https://www.youtube.com/@enzaiinfo>

または右のQRコードからご訪問ください。



■冤罪犠牲者の会 交流会 in 関西

これまで東京でしか交流会を開催できませんでした。冤罪当事者同士が意見交換したり支援者と冤罪当事者が繋がったり、会員同士の連帯の輪を作る場をなかなか用意することができませんでした。そこで今年は11月に関西で交流会を開催します。

日時：11/11（土）13時～16時（事務局のメンバーは12時半から準備しております。）

会場：甲南大学 岡本キャンパス内 251教室（2号館5階）

参加費：無料

住所：〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1

（阪急「岡本」駅より徒歩約10分 または JR「摂津本山」駅より徒歩約12分）

お申し込み

メール：info@enzai.org または satochinatsushi@gmail.com

電話：080-5182-3911（なつし聡）

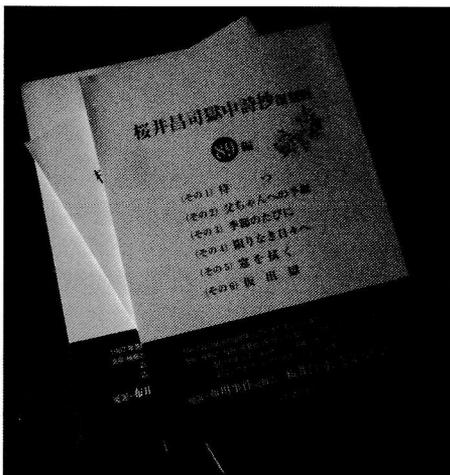
※参加費無料

※校内に入る際に、（学内で入試もあるため）門のところでお名前を言っていただくこととなります。そのため参加ご希望の方は早めにご連絡ください。

※飲み物をご持参ください。

皆さんにお会いできることを楽しみにしています！

今月もおススメ ■ 『桜井昌司獄中詩抄』復刻版



桜井昌司さんが獄中でしたためた詩を収めた『壁のうた』は残念ながら在庫切れとなってしまいました。しかし、この詩集を読みたい！ という方が後を絶たず。そこで、89編を選んだ『桜井昌司獄中詩抄』復刻版が発売されました！

気になるお値段ですが、1冊のみの発送はしていませんが、1冊なら送料込み1000円。2～9冊の場合は1冊700円（送料込）。10冊以上ご注文の場合は、1冊500円プラス送料1000円です。

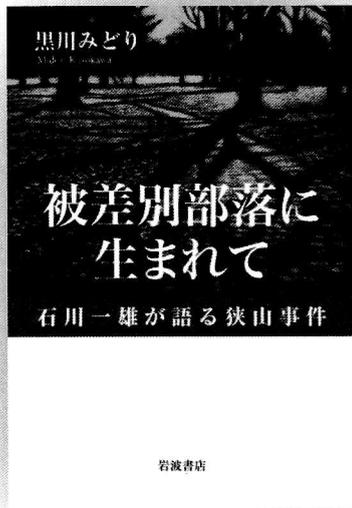
お申し込み方法はメールの場合は、info@enzai.orgまで。お電話の場合は、090-6474-4705（中澤）へ宜しくお願い致します。

■冤罪ラジオ番組「塀の中の白い花～ほんとに何もやってません」は地道に放送中！

この番組でも何度か取り上げた鈴鹿殺人事件。国民救援会中央本部の支援を受けることが決定しました。殺人犯とされた加藤映次さんが被害者を殺害したとされる時刻よりも後に、被害者のスマホに届いたメールが既読になったり、LINEアプリがダウンロードされているのです。詳しくは番組で→ <http://enzaibusters.seesaa.net/>



■今月の超オススメ！■



新刊『被差別部落に生まれて —石川一雄が語る狭山事件—』

黒川みどり著

岩波書店 定価2,750円

狭山事件本は数多くありますが、冤罪犠牲者の石川一雄さんが主体となる初の書籍です。

<内容>戦後を代表する冤罪事件「狭山事件」。被差別部落に生まれた、ただそれだけの理由で石川一雄は殺人犯として逮捕された。貧困ゆえの無学に苦しんだ生い立ち、30年に及ぶ獄中生活と部落問題への眼ざめ、仮釈放後も続く無罪を勝ち取るための闘い——その半生を辿りながら、部落差別が冤罪を生み出したことを明らかにする。

<海渡雄一弁護士の推薦文>黒川みどり氏による本書を読みました。素晴らしい本です。私は狭山事件については、ある程度

知っているつもりでした。万年筆問題や脅迫文の筆跡鑑定など数々の捜査の不可解な点があることも聞き知っていました。しかし、この本を読んで、実は何も知らなかったに等しいと思いました。なにより、石川さんが、どのようにして文字を獲得し、社会的な意識を深めて語ることができるようになっていったのかを知ることができました。

■■ 冤罪犠牲者の会は大会の主旨に賛同していただける仲間を集めています！ ■■

「冤罪犠牲者の会」が結成されたのが2019年3月2日。お陰様で少しずつ会員が増え、現在、230名を超えました。冤罪に巻き込まれてしまい、闘っている人、再審を目指している人、無罪を勝ち取った人が約50名、獄中で無実を叫んでいる人が約20名、近親者・支援者が約160名で構成されています。冤罪撲滅に力を貸してくださる方を募集中です。冤罪に関心をお持ちの方がお近くにいらっしゃったら是非、声をかけてあげてください。

年会費:個人会員(正会員)2000円 賛助会員1口1000円

「冤罪犠牲者の会」の口座

◎現金払込・ゆうちょ間送金の場合

記号番号 00150-7-515181

口座名称 冤罪犠牲者の会

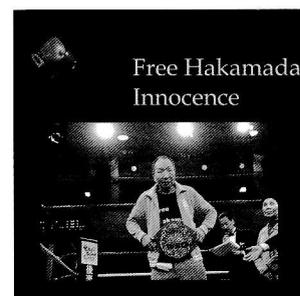
◎他行からの送金の場合

金融機関 ゆうちょ銀行(金融機関コード 9900)

支店 ○一八店(ゼロイチハチ店) 店番 018

預金種目 普通 口座番号 9884160

口座名義 エンザイギセイシヤノカイ



■CD「Free Hakamada」発売中！

Amazonや全国のCDショップでご注文できます。売上は冤罪撲滅を目指す支援団体に寄付します。

◎PayPalでの振り込みは大会ホームページの「大会について」から「入会のお申込み」ページにある会費支払方法をご参照ください。

◎冤罪犠牲者の会事務局は常駐スタッフがおりません。複数の冤罪関連団体が桜井司法研究所を共有しています。お急ぎの場合は080-5182-3911(冤罪犠牲者事務局長: なつし聡)へお電話ください。個人の電話番号ですので、この点はご了承ください。

発行: 冤罪犠牲者の会

〒160-0023東京都新宿区西新宿7-5-13 第3工新ビル201号室(桜井司法研究所内)

<https://enzai.org/> e-mail: info@enzai.org

発行責任者 なつし聡